

第 47 号

令和 4 年 9 月 21 日(水)

# 教育情報紙

発行：島根県教育委員会

(教育指導課)

TEL：0852-22-6709

Mail：shidou@pref.shimane.lg.jp

## 校内研修を新たな学びの場に

島根県教育センター所長

島根県教育センター浜田教育センター長

村本 愛治

### 学びの相似形をめざして

今、児童生徒の学びとともに、教職員の学びも変わろうとしています。

グローバル化、DX(デジタルトランスフォーメーション)の加速等、社会が急激に変化するとともに、先行きが不透明で、予測困難な時代の到来を背景として、令和3年1月に中教審答申において、「令和の日本型学校教育」の構築が掲げられ、その中で、めざすべき教職員の姿が示されました。その一つに、技術の発達や新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探究心をもちつつ自律的で継続的に新しい知識・技能を学び続け、子ども一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者としての役割を果たすことがあげられています。さらに、自らの専門職性を高めていく営みであることを自覚しながら、教職員が誇りをもって主体的に研修に打ち込むことが大切であるとされています。児童生徒の学びと教職員の学びは、相似形であることが重要で、個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現することは、児童生徒のみならず、教職員の学びにも求められています。だからこそ、新たな教職員の学びが、児童生徒の学びのロールモデルになると期待されているところです。

### これからの校内研修に期待

これまで教職員の研修の機会の一つとして、校内研修等が行われ教職員の資質向上への取組がなされてきました。8月に改正された「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」に示されているように、新たな教職員の学びを実現するにあたっては、これまでの取組を一層活性化させ、校内研修を教職員の学びとして位置づけ、活用していくなど、日常的な校内研修を充実させる必要があります。それぞれの教員が互いの授業を参観し合い、意見を交換するなどして、日々の学校教育活動を通じて、「経験を振り返ることを基礎とした学び」と「他者との対話から得られる学び」を積み重ね、組織としての力を高めていくことが校内研修に求められています。

### 全国学力・学習状況調査の結果を生かす

7月の終わりに全国学力・学習状況調査の結果を公表しました。結果は十分とはいえない状況ですが、各校での授業改善の取組は着実に成果となって表れているととらえています。結果全体からいえることは、各教科の問題は単なる知識を問うものは少なく、生活の場面で活用する知識として問われています。様々な形で活用できるよう、知識を一般化するところまでの指導を是非ともお願いします。各校におかれても結果の分析を行っていただいていることと思います。今回の結果分析をもとに、新たな教職員の学びとしての校内研修を推進していただき、児童生徒の力を一層伸ばしていただくことをお願いいたします。校内研修をより一層充実させるため、教育センターとしても学校支援に全力を尽くします。児童生徒も教職員もそして学校支援に携わる者も共に学び続けていきたいと思っています。

# 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果分析

4月19日に実施した全国学力・学習状況調査の結果について分析した「令和4年度全国学力・学習状況調査島根県(公立)の結果概要」を、教育指導課Webサイトと、しまねの教育情報Web(EIOS)に掲載しています。Webサイトでダウンロードしていただき、各校での分析や教育活動の改善に役立てていただければ幸いです。

また、「全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえた授業改善動画」を島根県教育用ポータルサイトにアップしました。ぜひご活用ください。



## <結果概要ダイジェスト>

### 1 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 結果の概要

- ① 小学校国語、理科、中学校国語、理科においては、全国平均並みであった。
- ② 小学校算数、中学校数学においては、全国平均を下回った。
- ③ 中学校理科以外の全ての教科において、前回よりも全国平均との差が縮まっている。

<島根県と全国の平均正答率とその差>

#### 小学校

	平均正答率 (%)		
	島根県	全国	差
国語	64	65.6	-1.6
算数	61	63.2	-2.2
理科	62	63.3	-1.3

#### 中学校

	平均正答率 (%)		
	島根県	全国	差
国語	69	69	0
数学	49	51.4	-2.4
理科	48	49.3	-1.3

<前回調査と令和4年度調査の各教科の平均正答率の差の比較>

#### 小学校

	正答率全国との差	
	前回	R4
国語	-1.7	-1.6
算数	-3.2	-2.2
理科	-2.3	-1.3

#### 中学校

	正答率全国との差	
	前回	R4
国語	-2.6	0
数学	-4.2	-2.4
理科	-0.1	-1.3

理科は、平成30年度実施のデータより作成

(2) 各教科の分析 (○成果、△課題)

① 小学校国語

- 「書くこと」において、感想や意見を具体的にとらえることができている。改善している。
- △文学的文章において作品の全体像を捉えたり、表現の効果を考えたりすることに課題がある。

【授業改善のポイント】

- ・「読むこと」における学習で、児童が物語などの全体像を具体的にイメージできるような学習の展開を設定する。
- ・様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを伝え合う学習を設定する。

② 小学校算数

- 図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解することができている。改善している。
- △示された日常の事象における場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することに引き続き課題がある。

【授業改善のポイント】

- ・生活経験を想起させるなど日常の事象を数理的に捉える活動を設定する。
- ・図形の意味や性質を基に、作図の仕方を考えたり、その方法について筋道を立てて説明したりする学習を設定する。

③ 小学校理科

- 問題を解決するための視点を持ち、観察記録等を見通して考えることについては、改善している。
- △仮説と結果を照らし合わせたり、根拠となる結果を取り出したりして、考察することに引き続き課題がある。

【授業改善のポイント】

- ・児童に問題を見いださせる場面を設定する。  
そのためにも、自然の事物・現象から問題を児童自らが見だし、主体的に問題解決を進めることができる単元構想を工夫する。
- ・習得した知識を活用して考える場面を設定する。

#### ④ 中学校国語

○文脈に即して漢字を正しく書くことができている、改善している。

△自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに引き続き課題がある。

△自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することや、工夫の意図を理解することに引き続き課題がある。

##### 【授業改善のポイント】

- ・自分の考えの根拠を明確にして書くために、根拠となる事実や資料を基に考えたことを書く活動や、資料から必要な部分を引用して自分の考えを伝える文章を書き、互いに読み合うなどの学習を設定する。
- ・表現の技法とその内容を理解するために、様々な表現の技法を用いた具体例を比較して違いを確認したり、生徒に表現の技法を用いた具体例を作らせたりして、技法の名称と内容を正しく理解させるような学習を設定する。

#### ⑤ 中学校数学

○「データの活用」の知識・技能については概ね定着している。

△根拠を基に説明することに引き続き課題がある。

##### 【授業改善のポイント】

- ・課題の解決までの見通しをもち、根拠を明確にしながらかえ、説明し合う学習を積極的に設定する。(今年度の指導の重点に示している「生徒が数学的な表現を用いて問題を捉え、考えを表現する活動」の設定)
- ・生徒が関数や図形を動的に捉えたり、性質をみつけたりするための、ICT機器、とりわけタブレット端末を有効活用する学習を設定する。

#### ⑥ 中学校理科

○自分の考えを表現することができるようになってきており、改善している。

○「生命」の領域については、観察の結果を分析して解釈することができるようになってきており、改善している。

△知識が他の場面で活用できるように概念等を理解することに課題がある。

##### 【授業改善のポイント】

- ・生徒が主体的に探究できるように、生徒が解決したいと思う課題を設定する
- ・課題について生徒が仮説を立て、自分で実験の計画を立てる学習場面を設定する。
- ・生徒が立てた仮説に基づいて行った観察・実験の結果を自分で分析して解釈できる学習場面を設定する。

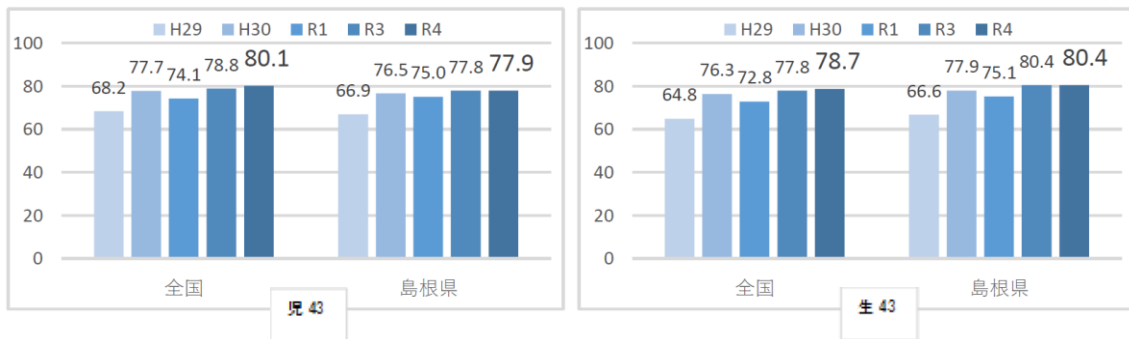
## 2 児童生徒質問紙・学校質問紙調査結果の概要

しまねの学力育成推進プラン の3つの柱（授業の質の充実・家庭学習の充実・地域に関わる学習の充実）に関わる取組についてまとめました。

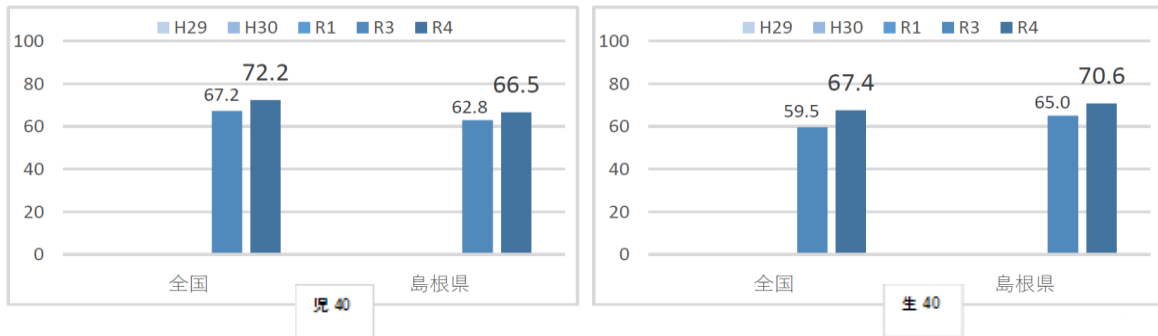
### (1) 授業の質の充実

- ①話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができていると回答している児童生徒が増えている。
- ②各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていると回答した児童生徒は、増加傾向にある。
- ③学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した生徒は、全国平均を上回っている。

①学級の友達【生徒】との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか【児43】【生43】 [ ]は質問番号



②授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか【児40】【生40】



#### 【各学校における取組の重点】

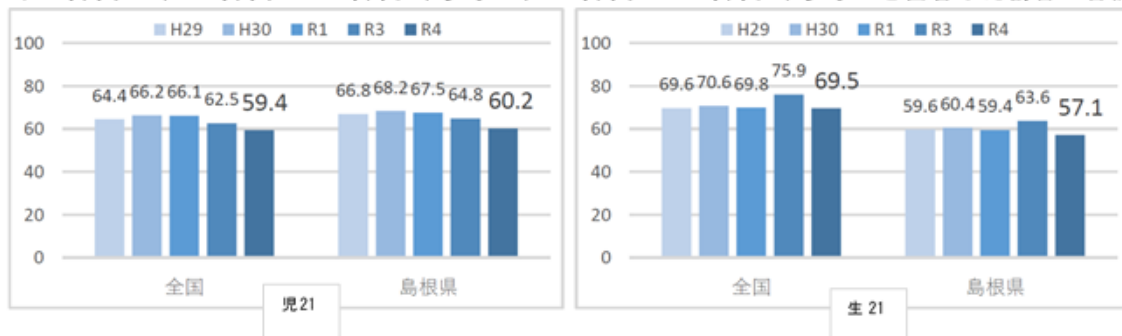
- ・身に付けたい資質・能力を明確にし、学んだ知識及び技能を繰り返し活用する場面を設定する。
- ・話し合い活動の質を高めるため、話し合う目的や視点を明確にするとともに、児童生徒一人一人が考えを表現する場面を確保する。



## (2) 家庭学習の充実

- ①学校の授業時間以外の平日（月曜日～金曜日）1日あたり1時間以上勉強する児童生徒の割合を全国平均と比較すると、小学校では上回っているが、中学校では依然として差が大きい。
- ②児童生徒に家庭での学習方法を具体的にアドバイスするなど、学校全体として意識的に取組が進められている。

⑥学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日どれくらいの時間、勉強しますか【児21】【生21】  
（3時間以上、2時間以上3時間より少ない、1時間以上2時間より少ないと回答した割合の合計）



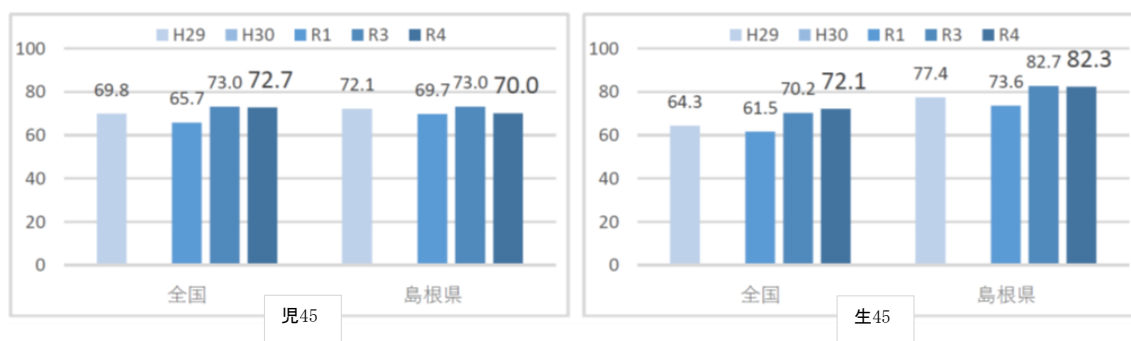
### 【各学校における取組の重点】

- ・家庭学習と授業との有機的な結びつきを図るとともに、児童生徒が自分に合った学習方法を見いだすことができるよう、教員の指導改善や児童生徒の学習改善を行う。

## (3) 地域に関わる学習の充実

- ①総合的な学習の時間において探究の過程（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）を意識した授業が展開されている。
- ②「ふるさと教育」の成果もあり、地域の行事に参加する児童生徒の割合は全国に比べて高い。

⑩総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか【児45】【生45】



### 【各学校における取組の重点】

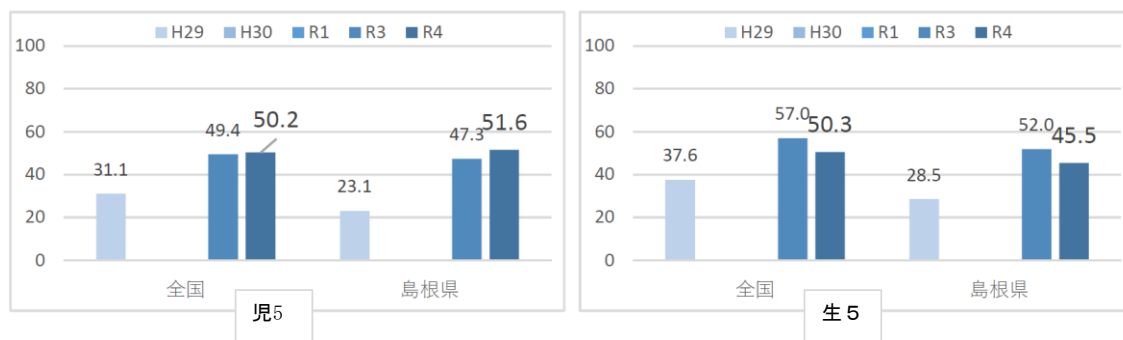
- ・児童生徒一人一人が自ら課題を見付け、解決への道筋を見通しながら様々な解決方法を考える姿勢を育成する。

#### (4) その他

① 1日あたり2時間以上テレビゲームをしている児童生徒の割合が中学校では低くなったが、小学校ではやや高くなっている。1日に2時間以上SNSや動画視聴などをしている児童生徒の割合も高い。

② 「指導計画の作成にあたり、教育目標を踏まえた横断的な視点で配列しているか」や、「近隣の小中学校と共通の取組を行ったか」については、全国を大きく下回っている。

⑬ 普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか〔児5〕〔生5〕  
（4時間以上、3時間以上4時間より少ない、2時間以上3時間より少ないと回答した割合の合計）



### 3 今後の対応

今後の県教育委員会の取組として、市町村教育委員会と連携・協力して実施している「しまねの学力育成推進プラン」を本調査の分析に基づきながら進めていきます。

そして、「しまねの学力育成推進プラン」の3つの柱の中の「授業の質の充実」のために、各学校で活用していただけるよう、次のオンデマンド研修資料を作成・掲載しました。ぜひご活用ください。

○ 「全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえた授業改善動画」のポータルサイトへの掲載

※国語、算数・数学、理科の授業づくりのポイントの説明（各校種1教科約15分程度）

結果概要掲載サイト

○教育指導課Webサイト

[https://www.pref.shimane.lg.jp/education/kyoiku/ikusei/chosa/zenkoku\\_gakuryoku.html](https://www.pref.shimane.lg.jp/education/kyoiku/ikusei/chosa/zenkoku_gakuryoku.html)

○しまねの教育情報Web (EIOS)

<http://eio-shimane.jp/ability-research/976>



## 「総合的な学習（探究）の時間ガイドブック」の配付及び「研修」の実施

島根県教育委員会では、「しまねの学力育成推進プラン」のもと、市町村教育委員会と協働し、小中高の系統性・連続性を図りながら、基礎的な知識・技能をしっかりと身に付けさせ、人生や社会で生かすことのできる確かな学力と学び続ける意欲を育む教育を推進しています。

本プランの取組の柱の一つである「地域に関わる学習の充実」のためには、教科横断的で探究的な学びの核となる総合的な学習（探究）の時間が重要な役割を果たすと考えています。また、その授業においては、各教科等の学習が地域や社会の役に立つことを理解し、学ぶ意欲を更に高める場となることが大切です。

このたび、小・中・高等学校の連携による一貫性をもった「総合的な学習（探究）の時間のあり方」を各学校へ普及し、児童生徒に確かな学力と地域にしっかりと向き合う力を育成するために、「総合的な学習の時間ガイドブック（小・中学校編）」「総合的な探究の時間ガイドブック（高等学校編）」を2冊セットで全ての公立小・中・高等学校、特別支援学校に配付し、そのガイドブックを使った研修を実施していきます。

今年度は、小・中学校等の総合的な学習の時間を担当する先生方を対象に「令和4年度 総合的な学習の時間ガイドブックを使ったオンデマンド研修」（必修的研修）を9月末より実施します。また、高等学校の総合的な探究の時間を担当する先生方を対象とした探究学習担当者研修等において「ガイドブック」を活用した研修を行っています。

この「ガイドブック」及び「研修」をきっかけに、総合的な学習の時間における地域に関わる学習がいつそう深まりますよう、各校での授業の見直し、改善をお願いします。



小・中学校編



高等学校編

※ガイドブックは、各校に配付したほか、しまねの教育情報Web（EIOS）にも掲載しています。